

オランダのランドスケープデザインから世界へ ランドスケープ設計事務所「MAXWAN」のプロジェクトの取り組み

大野 暁彦

はじめに

本講演会は、海外で活躍するランドスケープアーキテクトをお呼びし、建築をはじめとするランドスケープをこれまであまり学んでこなかった学生にランドスケープアーキテクトの魅力を伝えるとともに、国内で活躍する専門家に海外のランドスケープデザインの潮流を知っていただく機会になるよう企画したものである。今回は、オランダで活躍する日本人ランドスケープアーキテクト松浦寛樹さんをお呼びし、2017年7月21日(金)17:00~18:30に芸術工学棟 M101にて講演会形式で実施した。参加者は学部1年生をはじめとした学生と遠くは静岡から専門家が集まり、約40名に参加いただけた。松浦寛樹さんは、1973年東京都に生まれ、1996年に東京藝術大学美術学部建築科卒業したのち、オランダにうつり1996年から世界的に著名なランドスケープアーキテクト集団である West8 Landscape Architects (オランダ)で勤務後、1997年より MAXWAN Architects + Urbanists (オランダ)で勤務し始め、2004年には MAXWAN Architects + Urbanists のパートナー・共同経営者に就任している。2015年 MAXWAN 運営の傍ら MASA Architects (オランダ) 設立し、MAXWAN にて都市計画、アーバンデザイン、ランドスケープデザイン、MASA にて建築設計、インテリアデザインの業務を行う。MARCH (The Moscow School of Architecture)客員教授、その他各教育機関での非常勤講師(デルフト工科大学、ベルラーヘ・インスティテュート、Academy of Architecture Rotterdam、Academy of Architecture Amsterdam)及び各国のアーバンイズムの国際フォーラム (reSITE2015 Prague, Open Innovation

Forum Moscow, House of Future Moscow, 等)にてスピーカーを務める。

講演概要

本講演会では、オランダのプロジェクトをはじめとしてロシアなど世界各国で進行中のプロジェクトをご紹介いただいた。プロジェクトの規模も比較的小さな街区公園レベルのプロジェクトから都市計画レベルまでの様々なスケールのプロジェクトについてご講演いただいた。

規模の小さなプロジェクトでは非常に緻密な現地での観察のもと、町全体を俯瞰したストーリーから有機的で斬新なデザインを提案されていることがわかる。ベルギー・MachelenにあるDE SPOELBERCHPLEINという広場リノベーションのプロジェクトではとりわけ特徴的なプロジェクトが展開されており、オーソドックスなラウンドアバウトが、タコ足のような赤いペイブメントにより、自動車優先の図式が、歩行者優先の小さなガーデンのような広場へと図式を全く異なるものへと転換させていた。未だに幾何学的なアメリカンランドスケープモダニズム的な図式が世界で展開されている中で、非常に些細な改変でかつ、有機的な形態の挿入が、まちの構造を変えており、新しい潮流を垣間見たように感じた。

一方、都市規模の大きなプロジェクトでは、細かな都市デザインのサーベイから始まり、オランダのランドスケープデザインにみられるわかりやすいダイアグラムによる明快なスキームによるプランニングが行われていることを説明いただいた。モスクワの IFC MOSCOW というプロジェクトでは、460ha という非常に大規模な計画域を対象に、

都市周辺の水辺や緑を生かすべくグリーンインフラを都市内部まで引き込む計画を行うことで、自然と親しめる都市空間が提案されていた。



写真-1 講演の様子

以上の発表に続き、質疑応答を行った。専門家からだけでなく、学生からも質問があり、活発な議論が行われた。1.5 時間の講演会の後、アセンブリーホールにて懇親会を行った。学生も多数参加していただき、松浦さんへも積極

的に質問するなど、学生との交流が図れた。また名古屋で数少ないランドスケープの講演会ということもあり、参加者同士での交流もみられ、大変充実した場となった。

おわりに～日本から世界へ発信する～

非常に充実した講演であったが、松浦さんの前向きな姿勢と挑戦し続ける高い志は非常に感銘を受けるものであった。「オランダにふらっと渡航した」とおっしゃられていたが、海外で勤務するという高いハードルとも感じてしまいそうなことに果敢に挑戦されている。日本はランドスケープデザインという専門領域がそれほど広がりを見せていないがゆえ、世界に学ぶものは多い。ぜひともこの講演に刺激を受け、世界へ羽ばたく学生が増えてくれることに期待したい。またその一方で、日本に長年育んできた庭園文化の上に成立する日本オリジナルのランドスケープデザインを世界へ発信することも非常に重要だと感じている。